

第4回寒河江市部活動改革検討委員会 議事録

日時 令和5年12月13日(水)午後3時から午後4時45分
場所 寒河江市立図書館 2階 会議室

(事務局) 配布資料の確認をさせていただきます。次第、資料1各団体からの報告について、資料2寒河江市における部活動改革のガイドライン(案3)、資料3地域クラブ登録のための要綱の作成について、追加資料として寒河江市社会教育関係団体の認定に関する要綱です。定刻となりましたので、第4回寒河江市中学校部活動改革検討委員会を開会いたします。

初めに寒河江市教育委員会佐藤志津男教育長がご挨拶申し上げます。

(教育長) 皆さん、こんにちは。大分寒くなってきましたが、雪が積もらなくていいなと思っています。

本日は、第4回寒河江市中学校部活動改革検討委員会となりますが、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

この部活動改革で、大きな課題となるのが、子どもたちが休日等に活動するクラブ等をどうしていくかということだと思います。おかげさまで、具体的に動いてくださっている競技団体もありますし、研修会等で説明する機会を設けていただいたりしまして、具体的なイメージもだんだんと持てるようになってきたのではないかと思います。ありがとうございます。本日は、そうした状況についても、ご報告していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。また、これまでもご意見いただきました「部活動改革のガイドライン」についても引き続きご検討いただきながら、実際の受け皿となるクラブの設立や登録の部分についても、ご意見をいただければと思います。検討しなければならない課題はたくさんあるわけですが、一つ一つ進めていきたいと思っています。

今後とも、各種会合等での説明の依頼がありましたら、事務局までお願いします。また、指導者の確保も大きな課題ですので、各団体さん等でも、是非、指導者の情報収集や確保について、よろしく願いいたします。

委員の皆様方におかれましては、スポーツや文化活動を行いたい生徒が、自分の意志で活動の場を選択できる環境が作られ、将来にわたり、希望する競技や文化的活動を続けていけるよう、それぞれのお立場から、ご意見を出していただければと思います。本日もどうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 3の協議に移ります。佐藤教育長、議事の進行をお願いいたします。

(教育長) それでは座長を務めさせていただきます。次第に沿って進めていきますので、(1)受け皿となる団体について、各団体による聞き取りの結果について、事務局お願いします。

(事務局) 資料①をご覧ください、今回受け皿となる団体についてそれぞれの関係者の方から聞き取りをしていただきました。中学校を含めた各団体から報告をいただいております。その中の詳細なところや聞き取りの状況などまたは、注釈について必要なところをご報告いただければと思います。そして、その内容についてご意見等いただければと思います。

(教育長) それでは今、事務局からありましたように、各団体さんの状況等もありますの

で、また資料がない団体さんもこういう状況だということを出していただき、最後に質問やご意見はまとめていただくという形で進めていきます。まず順番にいきます。陵東中学校さんからよろしいでしょうか。

（委員）本校の場合、少ない活動でも平日の活動を減らしている時期が少し早いです。そして土日についても活動日を減らし、更には11月から土日、月のうちに一回、土日連続して休みを設けるとしています。それに対して職員からの理解も深まっていますし、保護者から活動時間が足りないという声も入ってきていないです。学校としての顧問の先生方としては、今後のことを考えた時に、土日の活動の場を維持しなければならないというようなことでスポ少であったり、地域の関係団体の方に話をしていると聞いていますが、具体的には進んでいないのが現状です。

（教育長）ありがとうございます。それでは次に陵南中学校さんお願いします。

（委員）陵南中学校のページ見ていただくと割と連携希望予定ありのところもあると確認できると思いますが、野球とソフトボールについては、顧問が中心ですが、合同チームをそのままクラブ化に持っていけないかという段階で進んでいるようです。それ以外、バスケットボールは、外部指導者の方がまだ、クラブではないですが、受け皿としての活動を検討してくれています。同じようにバレーボール、ソフトテニス、サッカー、卓球あたりは、コーチ陣が中心になりながら、受け皿として希望者に練習の場を与えますよという動きをとり始めています。そのメンバーの中では人を集めてクラブ化していきたいということまで考えてくださっている方が何人かいます。ここがクラブに成長していければいいかなと感じているところです。あと、剣道は市の剣道連盟の方が動いてくださっているのので、一番進んでいるかなと思っています。

（教育長）ありがとうございます。それでは陵西中学校さんお願いします。

（委員）野球につきましては、只今説明のあった通りです。陵西中学校の方では、男子バレーボールと女子バレーボールについて、20年ほど前に設立された総合型地域スポーツクラブ、陵西クラブというクラブがあるのですが、自主的な活動もなく、申請を更新していませんでしたが、今回ご相談申し上げたところ、もう一回申請して、先日、社会教育団体として認定していただきました。指導者は、コーチとバレーボール経験者が直接指導してくださっていますが、母体となる陵西クラブのクラブ長および事務局長は学識経験者や地域の方が担っています。

（教育長）ありがとうございます。それではスポーツ協会についてお話しいただけるでしょうか。お願いします。

（委員）次のページです。先月、各競技団体の方にアンケートをとりまして、このような結果でした。その前に、市の協会に加盟している山岳会とかパークゴルフ協会とかグランドゴルフ協会とか他にもあるわけですが、学校の部活動に関連するような団体ということで、アンケート調査をお願いしました。その結果については、連携しつつあるところがあります。例えば、水連の方からは返事はなかったのですが、今までもサガエスイミングとグートスイミングと二つありますけども、もう連携している状況だと思います。三つの中学校、他の市町からも来ている子どもたちもということで、一応調査しました。あとは検討していないところについては、これからはどうするのかということで、再度アプローチをかけたいと思っております。検討しているところについてはこのようなことで書いてあります。市のスポーツ協会の理事会を来週の水曜日に予定しています。昨年、市教委を招い

で説明をしていただいたのですが、その後の経過についても含めて、現在の進行状態について、来週の水曜日に市の理事会でお話いただいて、理事の方にもいろんな意見持つての方がいらっしゃると思いますので、お話を聞いていきたいと予定しております。以上です。

(教育長) ありがとうございます。スポーツ少年団の状況についてお願いします。

(委員) 端的に言えば、受け皿としては可能ですが、課題がございます。実は先週土曜日、12月9日にスポーツ少年団、24団あるわけですが、40名ほど集まり市教委から現状等の話をいただいて、課題やその対応等について検討会をしました。その一部をご紹介します。中学生の実態をお話すると、現在650名程度のスポーツ少年団登録団にいますが、うち中学生が92名です。中学生の10月時点での生徒数が1050名かと思います。ざっくり10%弱ぐらいの生徒が、すでに活動に参加しております。最近始めたわけではなくて、過去からずっとやっているわけです。ただし、スポーツ少年団の理念が大前提としてありまして、今まさにこの会議で話していることです。競技力向上なり、勝った負けたの技術力の向上というのは、スポーツ少年団の理念としては、一切設けておりません。これは別に山形だけじゃなく、全国同じ理念でいます。もしかするとスポ少については、中学生、高校生も加盟加入している団もあるかもしれません。単純な名目や形態から言えばクラブ活動になっているところもあります。ただし、その中で簡単にクラブ活動にするからクラブを立ち上げようと言っても、その継続性というのは大丈夫なんでしょうか。誰が先頭切って、責任持つてできるのでしょうか。あくまでもボランティアでやってるわけですので、そういうことが大前提としてあります。先ほどもありましたが、例えばバレーなんか、小さいころからすでに入ってるようなところもございます。そういう整理はついているのでしょうか。大丈夫なのかと言うのはあります。やはり、それには指導者の確保は外せない。小学校2・3年生と中学校2・3年生に対して、同じようなことをさせることはできない。時間を分ければいいといっても、現実的に考えると、指導者はそこまでしてくれるのかと。例えばスポ少はボランティアの中でやっている中で、有料ボランティアがあるのか、ないのかとか。制度上のクラブ活動にするために、少しでもお金もらうとなるとどうなのか。資格制度の話、後ほども出てくるかもしれませんが、誰でもやっていいというものではないと思います。中学校だって先生方が中学校教諭としての資格制度の中で、部活動の指導をされていると思います。小学校でも我々もスポーツ少年団、これは日本スポーツ協会の中の資格を取得した人がやっているのですが、そういったところも不明確だと。あとクラブ活動をした場合、中体連の関係はちゃんと整理はなってるのでしょうか。誰でも出られるわけではないと聞いています。あと、親が一番気にかけてるのは、送迎関係とかクラブ化してこれまで通りやれるのだろうかということです。道具、場所、施設ですね。小学校6年の保護者や指導者から出てるのは、週2、3回の練習で競技向上を目標にする人からすると、こんなので大丈夫ですか、やっていけるんですかと。すでに小学校6年の親については、もう明日明日中学校にあがるとなって、まだこんな状況ではとても心配で分らないと。様々なことが出ました。もっと紹介すればいろいろありますが、スポーツ協会がちゃんとあるので、もっと検討委員会の中で、種目別なりスポーツ協会と連携をして方針を考えられないでしょうか。いろんな考え方を持つてる人がいます。紹介したのは一部ですが、事務局からも後ほどあるかもしれませんが、こういった中で、今スポ少としては24団あるのですが、その各団にこのアンケートを出したわけじゃありません。ですから、団によっては温度差もあります。しかしながら、今回参加していただいた40名の指導者、保護者の意見というのが、それなりの包括した話になってると私は捉えています。もう一方、この受け皿という定義がどうも納得してないところもあるので、それ以上の質問があるのであれば、もう24団は個別に、回答してもらおうというような考えでもっていききたいと思っております。そんな現状でございます。

(教育長) ありがとうございます。それでは、市のスポーツ推進委員会の会長さんお願いいたします。

(委員) このスポーツ推進委員会の回答を見ますと白紙状態に見えるのですが、スポーツ推進委員のメンバーは、かつて部活動に入って活動したことがあるということで、ここに17の部活動が書いてありますけど、現在はほとんどは関わり合いをしてないので、非常に情報がない中からこれを出しました。ただ、私たちは、部活動をどうするかというよりも、どのように中学生と関わるができるのかということ踏まえて、それを地域のスポーツ活動というような捉え方としてまとめてありますので、私の方からまとめたことを説明という形にさせていただきたいと思っております。

部活動の地域移行の提言に対して、地域クラブとしての捉え方で検討しておりますが、私からは共生社会という関係の中で、中学生を交えた老若男女が楽しむ、地域スポーツ活動としての取り組み方であることをまずは了解いただきたい。保護者を含めた地域スポーツ等団体は、部活動は教育の一環だからこそ意味があり、継続してきた部活動の価値を高く評価しているというとともに、良くも悪くも学校が丸抱えであるというように認識をしております。部活動の地域移行という提言は、学校教育活動とは違う社会教育活動という位置づけになる。地域クラブとして中学生が参加することから、あり方として教育論を背景に基づくガイドラインを踏まえる必要があり、学校に代わって地域が受けることとしての認識が非常に高いです。生徒の自主性、そして主体性で参加する新たな地域におけるスポーツ文化活動の場づくりであるとともに、公立学校教職員の働き方改革を踏まえて、学校との連携を保ちながら、地域における子どもたちを大人として、また保護者としてどうするのかという知恵と意見を出し合う場作りでもあるという認識をした中で取り組む必要があると思っております。11月16・17日に青森市におきまして、全国スポーツ推進研究協議会青森大会が開催されました。この中でコロナ禍を超えたコミュニティとスポーツの新しい形というテーマの研修会でスポーツ推進委員には、コミュニティとスポーツを繋ぐスポーツの楽しさの魅力に取り組む役割があるという課題が投げかけられました。それは事例として取り上げた中で、部活動をしない中学生の放課後の過ごし方はスマホ・パソコン・ゲーム・テレビ、名付けてスクリーンタイムが76%を占めること。コロナ禍により児童生徒にタブレットが支給され、教科書に変わるという変化があり、機器の使用と身体活動の連動という新たな空間が発生したこの状況において、部活動の地域移行という提言にスポーツ推進委員が果たせる役割は何かという課題です。寒河江市中学校部活動改革検討委員会におきまして小学校6年生、中学校1・2年生に対する部活動についてのアンケート調査回答が報告され、アンケート項目で平日は学校で部活動、休日は参加しない、平日も休日も参加しない中学生の回答は合わせて66%であった。小学生は74%であったということからスポーツ推進委員に対する全国スポーツ推進研究協議会での課題と部活動改革検討委員会で報告されたアンケートの回答結果を合わせれば、教育委員会より委嘱を受けたスポーツ推進委員としての身分を持ちますので、スポーツ推進委員とその活動の認知度が低いという現状から、教育委員会より各中学校にスポーツ推進委員の存在と活動内容を周知すべく、案内をしていただき、休日におけるレクリエーションスポーツの大会を踏まえた上で継続的に活動する場づくりを行い、スポーツ推進委員としてスポーツを推進する目的で、地域におけるスポーツ活動の一端を担えば、その役割が広がり、認知度も高まるものと思っております。スポーツ推進委員会では、地域やサークルの要請に応じた体験教室を継続して開いております。開催の度に、会場は参加者の歓声に包まれます。楽しむスポーツの輪を広げるのが、スポーツ推進の原点だと実感しております。また、寒河江地区体育協会の事業として行うソフトボール、バレーボールなどのスポーツイベントにおいて、参加者の構成を中学生・高校生を含めたオープンなものに変えての参加募集に対しては、少数ながらも参加者がおりました。チームからの声援を受け、大人に混じって動き回る姿が微笑ましく思えました。事業として行う地域におけるスポーツ活動への参加を呼びかけ続けてい

こうと思います。このように、地域におけるスポーツイベント活動は大きな大会出場を目指すものではなく、生涯にわたるものであり、スポーツ推進委員会、地区体育協会、市内公民館を掌握する東部・西部・南部公民館の事業においても実施することができると思っております。しかし、東部・西部・南部地区公民館において学校との連携の上、体育館などの施設を開放したり、事業への参加募集をしても、中学生は利用したり、参加することはなかったという実態がありました。部活動をしない日々は、誰とも関わりのない自分の空間を持てるという解放感と自由に過ごせるという安堵感は、当世代の空間なのではなかろうか思いつつ、そのような彼らが地域スポーツ活動に参加して、彼らの空間の片隅を埋められれば、その課題が解消できると思います。この地域のスポーツの中にチームの構成員として中学生・高校生が参加している中で、このようなことを思ったところでありまして、私たちスポーツ推進委員としましては地域クラブの指導者ということじゃなくて、地域におけるスポーツ活動の先導役を作る役割ということを踏まえまして、取り組んでいこうというような状況等でありまして、以上でございます。

(教育長) ありがとうございます。それでは、総合スポーツクラブの会長さん、お願いいたします。

(委員) 総合型地域スポーツクラブというのは、全国的に展開されていて、各市町村に最低一つはクラブを作ろうという目標があります。学校区単位でやってるクラブの市町村もあります。趣旨は多世代、会費制、多種目で行う。私どもアスポートさがえですが、これは公募してつけた名称で、アスリートを育てるそういう意味です。アスポートさがえということで活動を展開して今年で丸18年になります。歴史的には、県内でも長い方です。山形地区では結構早いほうで、山辺、尾花沢も早かったのですが、その次ぐらいに活動を展開しました。この資料に書かれている種目について、お話しします。週に一回活動しているものをサークルと言います。それから、年間に20回とか18回とかという形でやるのをスクールと言っています。現在、合計で約400名弱の会員がいます。この資料の中で、ジュニアゴルフについては、参加する子どもたちが減って、今年から休止しております。ジュニアゴルフは、これまで過去2人ほど山形県代表で国体選手を輩出しています。一人はもう20歳で女の子。もう一人は高校3年生で天童の子です。二年連続で国体出場しております。その他に、毎週一回やってる事として、ヨガです。ヨガは週2回、夜と昼にやっています。それからピラティス。水曜日や日中に行っています。最近、ピラティスの参加者は非常に少なくなっています。この中で外部指導者、フラダンスとかキッズダンス、大人のゴルフ教室を年に20回、10回ずつを前半後半と分けてやっています。あとは、ほとんどが事務局を中心にして、職員がやっています。残念ながら、総合型地域スポーツクラブには、専任の職員がいない状況です。来年以降どうするかということが大きな課題になってます。大人が中心の種目だけです。キッズダンスには小学生がいます。この他にスクールとして60歳以上の高齢者を対象にした介護予防教室の生き生き健康教室。それから幼児で言うところのちびっ子スポーツ教室。それからジュニアスポーツ教室。これは日曜日の5時からです。ちびっ子スポーツ教室とジュニアスポーツコースは、募集するとすぐいっぱいになります。それだけスポーツに親たちの関心があるのだと思います。ジュニアスポーツ教室は小学生一年生から六年生まで40人。ちびっ子スポーツ教室は30名の募集です。あとは山岳会を中心としたトレッキング教室もやっています。部活動との関連でいうと卓球です。これについては中学生で初めてやるような子が水曜日の夜に、クラブに入って練習をして技術を磨いています。陵東中・陵南中の生徒が中心です。指導者がそんなにいないということもあり、人数が限られているということで、4~5名くらいです。前よりも一年生が入ってます。部活動との連携はなかなか厳しいものがあると捉えています。地域クラブというと、総合型地域スポーツクラブが中心になって進んでいる。進んでいるクラブについては全国的にも相当あります。県内の状況を見てくるとなかなか難しい。やっ

てると言っても、1つか2つのクラブです。総合型地域スポーツクラブが受け皿になるということは、なかなか県内の場合は難しいという思いです。以上です。

(教育長) ありがとうございます。それでは最後に芸術文化協議会の会長さんお願いいたします。

(委員) 実はこれは、去年とったアンケートでして、この会議に去年出しました。22 団体から返事がありまして、連携してもいいということです。現在 43 団体加盟団体があります。約半分の団体が連携するつもりです。資料に寒河江市書道協会は内容によるとありますが、経費関係とか場所とか、いろいろな不安材料を抱えながら、返事をいただきました。半分の団体は連携を希望していないということです。不安材料が非常にあります。しかも自分たちの団体も 5 人以下で 1 人 2 人しかいない団体もたくさんあります。今年も一団体脱退をしました。俳句の団体です。続けられないという声が毎年出てきます。郷土芸能関係は、絶やしてはよくない。田植え踊りとか大黒舞などでは小学校に出向いて指導している団体があります。学校の統廃合関係で、田代小学校がなくなりました。芸文協の加盟団体が行って、田植え踊りを一生懸命子どもたちに教えて、楽しんで練習していたようでしたが、続かなくなりました。非常に残念に思っています。先月の末に西郡関係の 1 市 4 町で、芸文協の連絡協議会という、情報交換会を 4 年ぶりで西川町でやりました。各市町村とも総合文化祭をやって、県の芸文祭を 9 月 3 日に行いました。おかげ様で成功だと思っていますが、そういう情報をお互いに公開しながら、そこに部活動関係の話が出てくるかなと思って期待していましたが、全然出てきませんでした。私の方から聞いてみたところ、ほとんどのところは進んでいないようです。体育関係が重点的に進んでいるようですが、文化系はほとんどアンケートなんかもとっていないし、やろうという雰囲気もあまり見られない。朝日町がミニ文化祭みたいのをやって、生け花、民謡、合唱、茶道、子どもたちに自由に来てもらって、どっかの場所を借りてですね。そういうのを試みようということがあるようです。毎週、日曜日にフローラの地下でサンデーステージをしております。来年で 10 年目に入ります。私が代表しています。先週の日曜日は 150 人以上集まりました。その前段に団体の発表がありました。普通は、40 人ぐらいは集まるんですが、100 人以上ってというのは珍しいです。大変好評でした。フローラの中には古い店もありますが、なかなか人が集まらない。寒河江市美術館がありますが、ほとんど人が来ません。寒河江市から映画館がなくなりました。それをサンデーステージで月一回、月末の日曜日必ず映画をやっていきます。ボランティアサークルがあり、非常に一生懸命ですが、今年限りでやめたいという申し出がありました。どこか大学に、自分の持っている映画の資料などを寄贈したいというお話です。部活動に関係する団体は芸文協にはありません。サンデーステージに子どもたちが、発表のために、年に何回か出ます。それから民謡と詩吟。これは中学生の女の子で、全国大会に行くような優秀な子がいます。芸文関係も少しずつ検討して、子どもたちの居場所を作れるようにどうするか、検討していかなくてはならないと思っています。

(教育長) ありがとうございます。それでは今、関係団体の皆様からご説明ありました。すごく多方面に渡ってますが、この辺お聞きしたい点などありませんか。

(委員) 資料の質問です。中学校の関係で言うと、例えば顧問ではありますけれども、これ現在の顧問が希望するということで、将来的にどうなるかということは全然関係してないのですね。ソフトボールとソフトボールのビリーヴジュニア。陵東中と陵西中が同じで、合同でいつもやってるといことなのですか。陵東中と陵西中が連携希望のところではビリーヴジュニアとあります。一方でソフトボール協会は検討していないということですね。その辺、協会とクラブの関係がどうなっているのかというのが疑問です。資料を見る

としっかりと検討してるのは野球ですね。野球連盟を中心にして、野球連盟も検討している。そのような理解でよろしいのか。

(教育長) 中学校の校長先生、どなたかお答えいただけますか。

(委員) ソフトボールについては、協会とクラブについて関連性、連動性はあまりないような感じがします。このビリーヴについては寒河江市の顧問のみだけでなく西村山地区のソフトボール部の顧問の先生方がなんとか今後の生徒の練習を見てもらって、それぞれの学校のチームがなくなる前に、なんとかつなぎたいというふうな思いで積極的に動いているという状況です。

(委員) 聞くところで、ソフトボールは天童に4つ中学校あるけれども、やっているところは2校くらいと聞いています。週に1回は合同で練習していると話を聞いてます。ソフトボールでも結構いろんな市町村でそれが進んでいるのかなと思って気にかけていました。

(委員) 切羽詰まっている競技についての動きが速いように感じています。

(委員) 野球担当です。寒河江市の中学校の野球部の顧問の先生たちが、このままでいくと野球部は9人に満たないという見通しを持っているので、将来一緒にやる方向を踏まえて、合同練習をしましょうということで動いています。これまでの2~3回ほどの合同練習をして、みんなで活動を継続できるように頑張っていきましょうと進めています。先週、今の小学6年生の子どもで、将来野球をしてみたい子どもたちと保護者を集めて、練習や今後の方向性や、保護者への説明会をしました。その中では、合同練習してほしいとか、いろんな要望があったようですが、いわゆる合同練習をするというのは、そこに顧問がいくのは非常に難しい状況です。模索してるのは、顧問でない方がクラブを立ち上げて、クラブに子どもたちが所属しながら、持続可能な方向を探っていけたらと検討しています。そして、そこに野球連盟の方々も、指導可能な範囲で指導をしていければということで、話し合いに関わっていただけるという現状です。

(委員) 新聞報道によると、例えば東根市でも卓球を合同でやろうという報道が見えます。要はすぐに完成する必要はないわけです。手がかりをどう作っていくか、その中で課題を見つけて発展させていけばいい。中学校は将来的に寒河江市は一校ということですから、急にこうやって完成案を作るということでなく、試行錯誤しながら、挑戦しながらしていく方法を見つけなくちゃいけないと思います。そのためには各競技団体が自分の競技をどうやって普及し、発展させていくかということをもっと考えてもらいたいと思います。私もバスケットボールに関係していますが、バスケットボールも検討しないといけないと思います。今後、土日も大会あるので、そこで話題にして検討するという方向に行くと思います。いろんなところの例を見ながら、やれるものをまずやっていこうと。そのために競技団体の考え方をもっと進めてほしいと思います。その中で、経験者がいっぱいいるので、事務局の体制をどうするかとか、その中でいかに指導者を確保していくかということだと思っています。

(教育長) 関連してございませんか。

(委員) もう一つは、スポーツ少年団との関連です。例えば、陵武会という柔道の少年団がありますけれども。陵武会は毎週火曜日夜7時から9時過ぎまでやっています。前半はスポ少でやっています。その後は中学生も一般の方も入って練習しています。柔道連盟は検討しないとなっていますが、柔道連盟からスポーツ少年団に指導者を派遣して活動して

います。ですから、その辺はすぐにでも取り組めるのではないかと思います。

(委員) おっしゃった通りだと思います。野球とかソフトボールは、2人の校長先生から説明があったように、顧問がまず動き出しました。それに野球の連盟の方が加わって、この後、結局中学校の手を離れるわけですから、その時に受け皿というか、その子どもたちの活動を継続するものになり得るかどうかを連盟の方で検討してくださってるようです。進むかどうか、分からないですが、まず野球の方は動いてくれました。そして、ソフトボールの方も協会とかは関係していませんが、まず顧問たちで合同練習からスタートしてということで、動き出して、ここからなんとかクラブ化に持っていけないかという段階にいるようです。同じような動きをとっているのが、卓球です。卓球もやはり顧問やコーチ個人が動き出しました。ここに連盟が加わってくれて、全体としての動きにならないかということで動き始めています。同様にソフトテニスも、逆に連盟が先に動き出したんですが、そこに個人で自分も手伝うという人が出て、連盟とその個人が一緒になって、クラブ化を模索しているという動きが出ています。いずれにせよ、全てきちんとした団体にはなり得ていないですが、まずは動きを始めたところが出始めているという状況です。

(教育長) 先ほどらい、継続していくことを考えた時に、顧問だけでは続かないですし、保護者の方といっても、お子さんが卒業されるとなかなか続けられないとかあります。連盟との関わりは、委員からあったようにすごく大事だと思います。例えば剣道は、剣道連盟という組織があって、先ほどもあったスポーツ少年団、寒南スポーツ少年団と寒河江剣道スポーツ少年団、陵東中と陵南中の子どもたちが入っているの、その代表の保護者にも入っていただいて、推進委員会を作って月一回、練習会をやっています。大会の後とか、先日、西根小学校を借りてやりました。あと1月、2月、3月も月一回やっていこうということで、やっています。それを見ていると運動関係は連盟の方と顧問やスポ少の方が一緒になって進めると割と進みやすい感じがします。事務局からありますか。

(事務局) 教育長からも、皆さんからもありましたので、整理させていただきますと、スポーツ協会さんの資料をご覧ください。今把握している状況です。連盟が動いているもの、顧問が動いているもの、両者が動いているものと分けさせていただきます。まず、陸上競技に関しては情報が入っておりません。野球に関しては、顧問と連盟が動いております。バスケットボールに関しては情報は入っておりません。卓球に関しては顧問と連盟が動いているようです。顧問というのは、三校の顧問ではありませんが、一部の顧問が動いてくだされば、それが波及するかと考えております。剣道は、顧問、コーチとかが入っています。剣道は連盟がしっかりと関わり、スポ少も関わっております。水泳連盟からは話は聞いていません。ですが、サガエとグートで生徒をうけ入れてます。バレーボールは情報が入っておりません。柔道も先ほど委員からありましたが、実はあたってみましたが、難しいという反応が来ております。ソフトテニスに関しては、顧問、連盟、そして外部指導者が動いています。ソフトボールは、協会は動いてませんが、外部指導者と顧問が動いているという状況です。サッカーについてはバラバラになっているので、まず情報がないです。一部の指導者の方が動いてみたいという話はでています。現在、全く手がついていないのがバスケ、バレー、柔道、吹奏楽です。この4つが寒河江市の中で先が見えないということで、実はこの今回の調査をしていただいて、そこをあぶり出したかったというのが事務局のねらいでした。

(教育長) というようなことが事務局からありましたが、ご意見とかありますか。

(委員) ここで検討してないっていうのは、この文字だけでは分かりませんが、この1番から14番の代表者を集めて話し合いたらいいのではないのでしょうか。

(委員) 是非やっていただきたい。

(事務局) スポーツ協会への説明は、来週行います。

(委員) スポーツ協会の話ですね。スポーツ協会の理事会には、競技団体がみな入っているわけではないですよ。

(委員) 理事会ですね。組織としては、会長を全部集めるとするのは難しいです。

(委員) 部活動にある競技だけ集まれというのは可能じゃないですか。

(委員) こういった会を受けてね、集まってもらいたいということは、これからは可能だと思いますけども、来週の今日では難しいです。

(委員) 子どもたちのために、とはいいますが、検討してないなんて意識がないとしかいえません。一般的に考えたら。がっかりしたところもあるし、ちょっとびっくりしました。

(委員) サッカーについて、モンテのクラブに入っているなんて情報はないですか。

(事務局) 私の方で、モンテに何人入っているかまでかはわかりません。

(教育長) サッカー関係いかがでしょうか。クラブいくつかありますよね。子どもたちが行ってるクラブです。

(委員) バasketボールでワイバンズに入ってやっている子、何人かいるような話は聞きます。そういう子はどのぐらいいるのかね。外部で活動している子は。

(事務局) すいません。前に資料を出したんですけど、第1回でしょうか。

(教育長) 例えばサッカーだと、今年の6月1日現在で言うと、陵東中学校9名。陵南中学校が10名。

(委員) 陵南中学校だけですよね。サッカー部があるのは。

(委員) 陵南中学校と河北中学校にしかないです。

(委員) 9人です。11人いません。チームがそろいません。

(委員) そのうちモンテに行っている子の数は。

(委員) モンテにいったる子は、サッカー部に入れませんが。登録の関係で。

(委員) ワイバンズはBasketボールで中体連に出られるのですか。

(委員) 陵南中の生徒出てましたよね。

(委員) 来年からは、中体連で出るようになります。

(委員) 来年からはクラブチームでも可能だということになるからでしょう。

(教育長) それでは、方向性としては、競技団体と連携してという方向が大事ではないかということが出されましたが、スポーツ協会さんとすれば、来週の理事会には間に合わないけれども、今後少なくとも部活動にある競技については、会長さんなりを入れていただいて、こちらから行って、説明する機会も設けていただけるということでしょうか。

(委員) さっき話題になりましたけど、例えばソフトボールですよね。ソフトボール協会の方では、全然検討してないのに対して、実際はやっていると。協会が認知してないところが、やっぱり協会としても課題なのだろうと。これから中学校の部活動改革の推進にあたって、そういったところでもう少し連携する必要があると感じました。

(委員) バasketボールの件で申し上げますと、希望する子どもたちが、どんどん進むためには、私たちが作らなければいけないというような意識と必要感が相まっていくことが動かすことになるのだらうと思います。そう考えたときに、Basketボールの場合は今の段階でワイバンズという強化を中心としたところが1つ。それから寒河江市にシップスという有料ですけども、安価なスクールがあります。週1回、そういう子どもたちがある程度住み分けされていて活動をしています。週1回しているのです。それから、週2回というのは、毎日の部活動がない時です。そうすると学校の部活動プラス2回なので週7日のうち5日練習をやっているのです。それ以外のことを考える必要もない。県内で地区内にBasketボールの指導者がいない学校はゼロなんです。この人数であって、合同チームを作っている学校もないです。指導者もいて、子どもたちは部活動である程度満たされていて、要するにそれ以上したい子どもは有料の強化、そこまでいかない子どもはシップスというようなところまで住み分けができています。また、Basketボールの場合もそうですが、強化サイドの力が強くて、アンダー14とかアンダー15とかその強化策の練習会がこの時期、毎週あります。大会とか、リーグ戦が。サッカーもそうですよね。それに教員も出されているので、それプラスこの練習会を立ち上げてというのは余力がない。合わせてそういった方々が連盟のメンバーです。それに連盟の事務局の方で、大変な時期であることがもう手にとってわかるので、ただ今後のことを考えた時に、やっぱり受け皿として作らなければいけないということは、もう重々承知なんだけども、学校の部活動の顧問の先生の練習で、ある程度満たされている生徒と家族が多いのも確かかなと思っています。

(教育長) それぞれの、競技によって状況がいろいろあるのだと思います。

(委員) それぞれの競技団体でも、年々大会が多くなってきていますから。

(委員) 競技団体からいろんなプレッシャーが大きくて。私も実は毎週のようにそういう大会とか、強化策などの方に行きます。その際に中学校ではなんで協力できないんだといわれます。これ以上は、学校の先生方を強化の方にやることなんかできませんと話しているところですが、学校の先生方をまた強化にということは不可能ですし、連盟で考えた時でも、寒河江市のことだけ考えるわけです。非常に厳しい状況であることはご理解いただいています。

(教育長) それぞれの競技団体のいろんな強化策とかが関わってきているということで、子どもたちが土日は今のところしない予定だという子が半分以上いるということからすると、今後どうなっていくか心配な部分です。みんな土日でも何らかのことをやりたいとい

うことであれば、いろんなクラブができて活動が成り立つのでしょうか、なかなかそのあたりが子どもたちと保護者の方も、土曜日までしなくてもいいというようなお考えの方が半分以上いらっしゃるということなどもあって、その辺の兼ね合いも難しいと思います。

(委員) クラブ化の話で野球や卓球とかの話ですが、平日は私はクラブに行きますけど、土日は行かないとか、そういう選択はできるような想定なのでしょうか。そう思ったのは、土日やりたいとか、やりたくないとか、自主性といえますか、子どもがやりたくないと言ったら、親はじゃあやめたらという話になるし、親も無理やりしたくないでしょうし、させようという風潮にはないと思います。そういうクラブ化という話が出てくるとどうなのかなということについていろいろ思うことは多々あったんですけど、子どもの立場からいくと、そういうことかなと思いました。

(教育長) 中心になって検討しているのは、休みの日に子どもたちが活動をする場を作りたいというのがまずあります。委員がおっしゃったように、平日もクラブといったところで活動すると、平日は部活動には入らないで、最初から外部に行きます。例えば今のスイミングなんかそういうわけです。グートとかサガエにもう平日から行って活動してるので、部活動には入らない。だからその辺がいろんな種類とかが混ざっている状況なので、なかなか難しいし、複雑化しています。

(委員) おっしゃる通りだと思います。水泳とかいいんですが、団体競技とか、例えば野球の場合、平日しか私は行かないけど、土日頑張る子がいたら、どうしても一体化ということになると疎外感が出てくるのかなとか思いました。やっぱりケースバイケースだと思うので、はっきり言えませんが、その辺の所も気になったところでした。

(委員) 今の件に関しての回答ですが、これ学校ごとに違うかもしれないですが、陵南中学校では全ての選択肢を与える予定でいます。令和7年までは土日の活動は学校に残るわけですが、そこでさえも土日はしません。平日の部活動にだけ参加しますという選択肢もあります。来年から行う予定です。

(委員) クラブに入る入らないで、人間関係がギスギスするから、それから試合にでるかでないか。どうしてもそういった問題はこれからあると考えています。実際、ある強豪校の話ですけども、そこで土日のクラブをやらない子がいるのですが、バレーボールですが、とって身長は高く有望なんです。でもやっぱりバレーボールはチームプレーなので、土日その子が入らないと、その子がない状況の想定で試合をする。でも平日は入るので、その子の居場所がなかなかないというのが現状のようです。そこを顧問が、いやこの子も部員なんだから、ちゃんとみんなと一緒にやろうよ、この子が入ったシステムを作っていくましようということ、このまま一生懸命その組織を作ってる。これから私たち学校の職員として、顧問としては、やっぱりクラブに入る入らない関係なくて、やっぱり子どもたちを平等に扱いながら、可能性を伸ばしていく、そういった指導が必要だと思います。

(教育長) 平日の学校での活動はそうだと思います。そこに关わるのが、中体連の大会の参加で、クラブとして出るか、学校として出るか。個人が選んでということも関わってきます。そのあたりはどうでしょうか。自分は学校で出ます、自分はクラブで出ますとなった時に、両方とも人数が少なかったりするということもあり得るのかと思います。

(委員) 事例をお話しします。今言ったことの逆パターンですが、ある競技の事例です。

保護者から大会は学校から出たい。でも、学校の練習には出ないで、外部のクラブで練習します、という申請がありました。学校としては、そのご家庭には、団体種目なので、練習でみんなと一緒に活動をしていなければ、いくら学校から出たいと言っても、チームの選手として選出することは学校としてできません。部活動としては選べないですと説明しました。クラブに行って練習してるのはいいですが、こちらの練習試合とか、そういうところに、毎回とは言わないけども、せめて参加してこのチームとしての動きを一緒にやっていたか限りは、学校としては登録できないと返事をしたご家庭もありました。

(委員) その子はまた別の機会に別のところで力発揮する場があるわけでしょう。

(委員) ないです。そのクラブは、練習はしますが大会には出ません。

(委員) 難しいのですが、そこを私たちは育てなければいけないところなので、どちらを選ぶかをちゃんと見通して、選ぶのが大事なのかなと思います。学校で行う部活動の目的というのは勝利至上主義じゃないことは前提として、部活動で何を身につけさせるのかを考えた時に、平日の活動をしないで大会の試合に来るとか、逆に平日頑張って練習して友達と育てているものがあるのに、大会にいない。これは部活動に参加する子どもたちに対しての選択肢としてはあっていいものなのかと私は疑問です。学校の外で練習しても構わないと思います。それは自分が選んで有料でも上手になりたいとか、他の子どもたちと交流を深めたいという目的はあってやっているわけなので、それはそれとして分けて考えないと私たちが求めているものがぶれてしまう。

(教育長) そもそもこの部活動改革の目指すところというのは、生涯スポーツであったり、生涯の文化的活動を続けていこうということで、勝利どうのこうのではないわけです。ただ、どうしても中体連の大会等になってくると、どこから出るとか、また、県大会を目指してとか、東北大会目指してとか、その辺の噛み合わせがなかなかうまく合わない部分があるのが現実なんだと思います。

それでは、本当にいろんな面からご意見いただきまして、ありがとうございます。この点については今後とも検討していかなければならないことですし、こちらからもさっき言いましたように、各競技団体やスポ少さんの方にもいろんな面でご理解いただけるように、説明等いきたいと思いますので、ぜひそういった場を作っていただくとか、または一緒にそういった場を設けるとか、よろしく願いたいと思います。

(委員) 芸文協さんにつながるのかと思うんですが、実は陵南中学校で新たに地域クラブが今2つほど立ち上がろうとしています。1つは神輿です。今年、陵南中が寒河江神輿の祭典に出たのですが、指導者の方があれをクラブ化したいと言ってくれています。だから今年は3年生の有志で行きましたが、1年から3年まで全部の希望者を集めて、放課後とかそういう時間帯の練習をしてやっていく。そのクラブのメンバーで成長した人たちが、将来の指導者になってくれればいいという思いでやりたいという相談を受けてます。ぜひクラブ化の方向で進めるといいのではないですかと話もしています。もう1つは寒河江工業の西側に、ものすごい大きな施設を造っています。ボルダリングの施設だそうです。そのボルダリングをクラブ化したいという申し出があって、中学生を誘っていいですかというお話がありました。ぜひどうぞと言ってます。来年4月スタートだそうです。なので、ボルダリングのクラブを作ったらすごい数の希望があるのではないかと考えているところです。

(教育長) 高さが15mくらいですね。あとは、ちっちゃい子とか初心者もできるようなものも、2階の一角に作るということでした。神輿の方は今年40周年記念がありました。

やっぱり神輿の方も担ぎ手の後継者がなかなかいなくなっているということで、ぜひということで今も委員からあったように、クラブ化ということでしょうから、それは陵南中学校だけじゃなくて、陵東中学校や陵西中学校の子どもたちで、ぜひ神輿をやりたいという子は一緒にやるということは可能だと思います。あとは、神輿は9月なので、その他の時期は、例えば地域のいろんなイベントとかに参加するとか、ボランティア活動をやるとか、そういった地域参加型のクラブもあるのではないのでしょうか。私もその指導者の方とこの前話をしたところ、そういったいろんな形での競技だけでないクラブなんかもできてきますし、ボルダリングは水泳と同じように、競技をどんどん進めたり、技術向上を進めるといようなところで、入る子もいっぱいいるかもしれません。

(委員) 同じような話ですけども、スケートボードの部とかはないですか。旧幸生小学校にあって室内で冬季でもできる施設もあって。

(事務局) こちらの資料にも載っていますが、今年春先に、寒河江市アーバンスポーツ協会という任意の団体が立ち上がって、スケートボードとかBMXを主にスクールをやったりとか、大会とかをやっている団体があります。ただ、受け皿となると、まだ本当に活動としては練習会をしたりとかぐらいしかしていません。陵東中学校に通ってる生徒さんでスケートボードをしている人がいて、その人がフローラサガエの地下に板が敷いてあるところがありますが、そちらを活用させてもらえないかと市にお願いが来ている状況です。平日の夕方からとか、学校が終わったあたりで使わせていただきたいと話が来ているので、その辺で貸していただけることになるのであれば、陵東中学校の保護者さんと繋がりができて、そこから波及して何か別な案を作っていくなどとかもあるかもしれません。そちらの方向で考えているのではないかというぐらいしか、私の方では言えません。

(教育長) 今後クラブ化することもあり得るという状況ということですかね。

(委員) 一応、そのアンケートの中で検討しているとなっています。話にはなっているのかなというぐらいしか言えません。

(教育長) ありがとうございます。

(委員) 学区ごとの神輿ではなく、寒河江市の中学生の神輿としてのクラブ化を目指してほしいと思います。

(委員) クラブの中に学区ごとがあってもいいのではないかという話があります。自分の地域の神輿があるので、その神輿を伝承するというような。そんな方法についても話は指導者の方と話をしています。

(教育長) いろんなパターンがあるので、なかなか難しいです。こういう情報交換をしていく中で、いろんなあり方があっていいと思います。まずはスタートの仕方もいろいろあると思います。それでは本当にいろんな面からご意見いただきまして、ありがとうございました。それではガイドラインについて事務局お願いします。

(事務局) 今回は青字で修正させていただきました。

～修正点の説明～

今回、修正加筆しましたが、他にもここに無いようなことなどを、もし盛り込んではどう

かというご意見ありましたらいただきたいと思います。以上です。

(教育長) ガイドラインについて、これまでのお話し合いを踏まえて修正したところがあるということでしたが、先ほどのいろんな話も、これにも関わってくる部分があると思いますが、その都度書き加えていったり、訂正していったりということになっていくと思います。現段階でこのあたりどうなんだろうということがございましたら、お願いします。

(委員) 私はこの連携という言葉を使った方がはるかに幅が広がって、すごくやりやすくなるのではと思います。地域移行という言葉では、どうしてもそちにまるっきり行かなければならないみたいなニュアンスになると感じます。地域連携という言葉でやっていくという表現はすごくいいと思います。

(教育長) まさしく実態として地域連携ということだと思います。競技団体さんと文化団体さんとかが連携しながらというところですか。他にございますか。

(委員) 20 ページのところで、あえてこれ中学生の問題かなということで消したのかなと思うんですが、児童を消してありますね。吹奏楽が今、動き出している中で、小中学生が一緒になった団体が吹奏楽連盟のコンクールへの参加が認められるようになっていくということです。例えば大江町の方で小中学生を一緒にした吹奏楽の団体が動き出していると聞いています。音楽館が中心になって、動き出したようです。あとは山形のほうでも小中学生での団体を作ろうとしているようです。それを考えると児童とあってもいいのかなと思ったことです。

(教育長) 事務局いかがですか。

(事務局) このガイドラインが本来、何のためにあるかと言いますと、あまり長期ではなくて、まずは地域クラブが休日に運営できるように作成しております。その地域クラブはどのようなクラブかと言いますと、まずは中学生の受け皿として運営できるところと限定したところになると、今回のような表記になります。もしその制限を外して、将来的に小学生も中学生も高齢者の方もとか、あとは平日もとなってしまうと、書き方が全然変わってきます。もし年度が変わって行って、例えば5年後になってくると、この中身は変わってくると思いますが、そこまで見越してしまうと、たぶん中身がぼやっとしたものになってしまうので、絞ったここ2、3年のところ限定したもので、今回作らせていただいています。そういう視点で見ただけだと、少し整合性がついてくると思いますので、そこをご意見をいただければと思います。

(教育長) 校長先生のご意見だともう2、3年というか、もう来年、そういった中で、子ども、小学生と中学生一緒に活動とかもあるということであれば、原則として児童生徒としていっても特に問題はないのかと思います。実際、そういうクラブも出てくるかもしれないですね。

(委員) 実際、今日のスポ少も小学生も中学生も入っている実態があるわけですよ。そこは問題ないのかなと思います。

(教育長) 先日、剣道の方も大会後に合同練習会だったので、小学生も希望者が一緒に参加して練習会なんかしていますし、小学生も入っていても特に問題はないということでもよろしいですか。このガイドラインについては今後ともいろいろこういう話し合いを進めていく中で、また今のようないろんな情報が出てくる中で、加わっていく部分もあると思い

ますので、今後とも検討を続けていくということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、本当に時間が少なくなりましたけども、次の地域クラブ登録ための要綱の作成に関わつて、事務局お願ひします。

(事務局)では資料3をご覧ください。これから地域クラブを立ち上げるにあたりまして、地域クラブとはどういう組織なのかということを決めていかなければいけないと思ひます。そのためには、それをしっかりと記した要綱が必要になってきます。スポーツ少年団や寒河江市の社会教育団体などは、要綱を見ながら登録をしていくということで、同様のものを作成していかなければいけないと考えております。参考資料として別紙で寒河江市社会教育関係団体の認定に関する要綱を準備しました。細かく、これを読んだりはいませんが、これから地域クラブを認定していくための要綱を作っていくために、大事なところがいくつかあるので、そこについてご意見をいただきたく資料3を作りました。その中でも大事だと思ひているのが、団体の登録人数、会場の使用料、設備使用料の減免。参考までに、部活動とスポ少と社協団体の減免の状況を書きました。後は、指導者の人数や資格等や備える書類についても記載があるのではないかと思ひたので、今回皆さんからご意見をいただきたいと思ひてお示しました。今日いただいたご意見ですぐに作るわけではありませんが、ご意見いただけましたら、次回にはもう少しまとめたものをお示したいと考えているところです。いつまでという時期は決めていませんが、手順を踏みながら、できるだけ早く完成させたいと考えているところです。以上です。お願ひします。

(教育長)それでは何点か、ぜひご意見いただきたいところ出ていますので、まず、登録の団体の人数についてというところはいかがでしょうか。

(委員)こちらの方の団体、社教団体は10人以上いることと書いてあるんですけども、10人の根拠はなんですかね。なぜ10人としたのでしょうか。

(委員)今質問しようとしたのはそこなんですけど、この人数制限を儲ける必要性というのはなぜ生じてくるのか。

(事務局)それについては、その後の減免のところに関わってきますが、ある程度の団体ではなくて、個人にも関わらず、団体のような形で、その広い公共の場所を占有されてしまうと困るのかなというところもあります。ただ一方で大きな団体のスポーツと少ない人数でもできるスポーツというか集まりや小さいサークルもあるということで、どういうふうな定義づけをすると団体としていいのかと思ひて、このように今回お諮りしているところです。

(委員)スポーツ少年団は10名以上で全国的に登録しています。以前はあまり明確じゃなかったのですが、数年前から、10名以上でないと登録を認めないという取りきめです。以前に全国によくはない例がかなり出たようで、山形県でも遵守しなさいということで、今は完全に10名以上でないと認めないということです。

(教育長)ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

(委員)減免対象というのは市の条例で決まるんですか。例えば、アスポーツさがえの場合は体育館は全部有料です。減免はありません。減免がないのは県内で米沢、上山、山形、天童、寒河江だけです。あとはスポーツクラブについては、全部減免してます。ところが、公民館や文化センターを私たちの会議で使用すると減免してもらってます。どういう条例なのかは私は見たことないのでわかりません。公民館、文化センターの会議室が減免

で使用料はいらないです。ところが体育館の会議室を借りると全部使用料を取られます。県にいろいろ聞いたのですが、正確に情報として出せないと、ただ口頭で聞いたことでは、先ほど挙げた市では、スポーツクラブが減免されておらず、あとは、ほとんどの市町村全部減免だという状況です。

（委員）今の減免関係では、各市町村任せではなくて、県とか国、文科省あたりで、こう方針を出してというのが希望です。

（教育長）子どもたちの受け皿としてのクラブの減免等については、例えば寒河江市と山形市が違うとかいうよりも、統一的なものがあつた方がいいのではないのでしょうか。当然、その他の市町村でも、こういった要綱等は作っていくと思います。そのあたり、情報交換しながら作成していくということが必要かと思ひます。それに伴つて条例改正等も必要になってくるかもしれません。特にこの項目、会場使用料、それから指導者の資格とかなんかで、ぜひこういうことは入れておくべきでないかというようなところなどありましたらばいかがでしょうか。

（委員）資格のところについてもよろしいですか。やはり資格がある程度あつて、研修指導を受けた方が指導者になっていただきたいと思ひます。ただ、その資格を取るために日本スポーツ協会などの場合は7万円かかります。7万円を補助していただきとなつた時に個人の資格になるので、市からの補助は難しいということを前に委員会のほうからありましたが、その辺できれば、そういった補助等も、例えばスポーツ関連団体からの補助とか、そんな形でいただければ資格を取りやすいのかなと思ひます。もう一つ、ガイドラインにもありますように、委員会の方や組織の方で、研修会を開いていただいて、いわゆるプレイヤーズファーストとか、そういったことをきちつと盛り込んでいただいて、指導者を確保していただきたいと思ひます。

（教育長）要望ということで事務局お願いします。

（委員）資格については、今後、しっかりとしたものを作っておかないとだめだと思ひます。これはこれからの問題だと思ひます。しっかりと指導者を発掘していかなければならないと思ひます。

（教育長）よろしいですか。

（委員）最終的に、こういう資格とか様々な備えるべき書類というのは必要になるとは思ひますが、まずは動き出しの段階というところで、先ほども話題になりましたけども、完璧な状態でスタートしなくてもいいのではないかという、そこら辺を、例えば猶予期間のような形で、減免対象の団体として、この要綱の中に載せていただくことはできないでしょうかという要望です。

（委員）例えば、スポ少では、その年に立ち上げたい。でも資格がないという場合には、11月以降にはその資格を習得するという前提条件の下、4月から活動していいというような取り決めがあります。それと似たような形で、寒河江市でも取り入れられればいいのかと思ひます。4月から活動はするけれども、その指導者研修会などは秋とかになるので、その研修会は受けてくださいというようなことを検討しております。

（教育長）なるべくスタートしやすいようにということですね。他にいかがでしょうか。じゃあこの点についても、ご意見いただいたことを踏まえて、もう少し次回は形にして、

ご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、その他何か皆様からございますでしょうか。なければ、協議はここまでにしたいと思いません。ありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。では、事務連絡です。次回の会議は最終回となります。年が明けて2月6日に開催予定です。内容としては、このガイドライン、あとは要綱について、次年度の計画などをお話しさせていただきたいと考えております。いろいろご意見を出していただいて、大変勉強になりました。クラブだけではなく、例えば本当にスポーツ推進委員の場合だと、別の取り組みで子どもたちの活動の場を作っていたり、あと総合型は、また別の取り組みでスクールとか教室の形もある。あとは神輿の件ですね。お話を出していただいて、幅が広がることで、また少しいろいろと考えて皆さんにお示したいと思えます。長時間にわたりご協力いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、第4回寒河江市中学校部活動改革検討委員会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

(委員) ありがとうございました。